第4回伊賀市総合計画審議会 議事録

開催日時	令和2年1月10日（金）14:00～14:50
開催場所	伊賀市役所4階 庁議室
出席委員	<p>乾 光哉（【1号委員】社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会）</p> <p>森野 廣榮（【1号委員】伊賀市環境保全市民会議）</p> <p>小坂 元治（【1号委員】一般社団法人伊賀上野観光協会）</p> <p>松山 隆治（【1号委員】伊賀市農業委員会）</p> <p>藤巻 惠（【1号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会）</p> <p>加納 圭子（【1号委員】教育行政評価委員会）</p> <p>服部 保之（【1号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会）</p> <p>今井 和子（【2号委員】公募委員）</p> <p>岩崎 恭彦（【3号委員】三重大学人文学部）</p> <p>中島 嘉子（【5号委員】 — ）</p> <p>澤野 政子（【5号委員】 — ）</p>
欠席委員	大北 薫（【5号委員】 — ）
議事日程	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事録署名人の指名について</p> <p>4 議事</p> <p>（1）第2次伊賀市総合計画次期基本計画の策定について</p> <p>（2）伊賀市自治基本条例見直し検討経過について</p> <p>5 その他</p>
議事概要	<p><u>1 開会</u></p> <p>（事務局）</p> <p>ただいまから、第4回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただきます。</p> <p>会長が選任されるまでの間、進行を務めさせていただきます伊賀市企画振興部の三枝です。</p> <p>それでは、事項に入らせていただく前に、何点かご確認・ご報告させていただきます。</p> <p>★案内通知の訂正</p> <p>本日の審議会の開始にあたり、12月2日付けで委員の皆さんに通知させていただいた案内通知について、「第2回伊賀市総合計画審議会の開催」としておりましたが、正しくは「第4回」でございますので訂正させていただきます。</p> <p>★資料の確認</p> <p>資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事項書の下に資料一覧を記載しているが、</p>

- ・審査会名簿
 - ・資料1 第2次伊賀市総合計画次期基本計画策定方針案
 - ・資料2 自治基本条例の検討経過
 - ・伊賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要版冊子
- 資料の過不足があれば、事務局へお声掛けいただきたい。

★会議成立の確認

本日は、委員の半数以上の出席をいただいているので、会議は成立している。

★会議及び議事録公開の確認

本日の会議も運営規程により、会議を公開し、会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いする。

また、会議録についても公開させていただく。

それでは、お手元の事項に沿って進めさせていただく。

2 あいさつ

(事務局)

はじめに、岩崎会長よりあいさつをいただく。

－会長 あいさつ－

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

本年は、自治基本条例の見直しや総合計画次期基本計画の策定と重要案件が控えているが、場合によってはかなりの頻度で皆さんにお集まりいただくこととなろうかと思うがよろしくお願いたします。

(事務局)

以後の進行は、会長にお願する。

★会議成立、会議及び議事録公開の確認

(会長)

先ほど事務局から会議の成立、また、公開について説明があったがご了承いただきたい。

3. 議事録署名人の指名について

★議事録署名人の指名

(会長)

議事録署名人の指名について、「総合計画審議会運営規程」第4条に基づき、会長が

議事録署名人を2名指名することとなっているので、松山委員と今井委員を指名させていただく。松山委員、今井委員よろしく願います。
それでは、議事に入る。

4. 議事

(1) 第2次伊賀市総合計画次期基本計画の策定について

(会長)

第2次伊賀市総合計画次期基本計画の策定について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

【資料1 第2次伊賀市総合計画次期基本計画策定方針案についての説明】

- 1 策定趣旨
- 2 総合計画の構成及び期間
- 3 次期基本計画策定の視点（基本的な考え方）
- 4 策定体制
- 5 スケジュール

- ・当策定方針案については、1月27日までパブリックコメントを実施しているので、本日の審議会以降にご意見がある場合は、パブリックコメントにて意見をいただきたい。
- ・4月には当審議会へ次期基本計画の策定について諮問させていただく。
- ・次期基本計画へ包含する「伊賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について説明させていただく。

【参考資料：伊賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要版の説明】

- 1 総合戦略の目的
- 2 伊賀市の人口推移
- 3 伊賀市の目指すべき姿
- 4 伊賀市における人口減少の要因と課題
- 5 政策パッケージ及び取組事業

- ・国の総合戦略が昨年12月下旬に閣議決定された。
- ・伊賀市においては、今年度末で計画期間が終了する総合戦略を1年延長し、第2次総合計画次期基本計画に包含する。

(会長)

総合計画と総合戦略では名前が似ており、中身もかなりの部分が共通しているので、うまく整理・区分ができるものでは必ずしもないと思うが、元々総合計画は地方自治法に基づき策定してきたものであり、現在では伊賀市独自に策定する総合計画とまち・ひと・しごと創生法に基づき策定されている総合戦略では、法体系において別計

画として位置付けられていることから、伊賀市においても別の計画として策定されてきた。一方、近年のトレンドでは、三重県でもそうだがこれらを統合するという方針で次期の検討を進めている。伊賀市においてもそのような方針案を示され、どのような視点で策定するのかの説明をいただいた。

基本的な確認事項も含め、質問、意見等があればお願いしたい。

(委員)

再生計画を策定する際には、第1次計画の課題を振り返ったうえで、第2次計画を策定してきたが、総合戦略についてもここに書かれている課題を次期基本計画へ引き継ぐことで良いか。

(事務局) はい。

(会長)

これまでの総合戦略の実施状況に対する評価やそれに対する課題抽出を踏まえ、次期基本計画に反映させることとなる。

他方、総合戦略は20年あるいは40年先を見据えながら長期的な視点で取り組むものであるが、短期的な見直しと中長期的な継続性との整合を図りながら検討していくこととなる。その辺りのことは、追々説明いただきながら進めていきたい。

(会長)

事務局から説明があったが、1月27日までパブリックコメントを実施いただいているので、当審議会終了後に意見が出てきたときにはパブリックコメントの方でご意見を提出いただきたい。

(委員)

確認であるが、基本構想はあと4年あるので変更せず、再生計画を変更するにあたり、次は再生計画を基本計画として総合戦略を包含した形で策定するということが良いか。

(事務局)

はい。

(委員)

そうすると、市長任期が11月までとなるが、その後も市長が代わらなければこのスケジュールで進めていけば良いが、万が一市長が代われば基本計画自体が市長の任期に応じ策定されるので、それによっては新しい市長の方針を反映していく必要があると思うが、そのような理解で良いか。

(事務局)

第2次再生計画自体が市長の任期に合わせた計画となっており、どこかの時点で市長が代わった場合同様のことが必ず想定される。今回のスケジュールでは市長選挙前

に中間案まで検討しておき、市長の交代の有無に関わらず、市長選の公約等もあることから、それを計画に反映できるよう最終案までに調整する期間を確保している。

基本構想を継続することから大幅な変更は考えていないが、もし、市長の交代に伴い方向性が大きく変わることになれば、新たに基本構想から見直す必要があると考える。

また、計画の名称であるが、当初「第3次再生計画」という名称も考えていたが、いつまで再生なのか、どこを目指して再生なのかというご意見をいただいていることから、一旦策定方針では「次期基本計画」としているが「再生」に代わる新たな名称について、皆さんの意見を頂戴しながら検討していきたいと考えている。

参考までに第2次再生計画が策定されたのは6月である。お示したスケジュールでは3月策定を目指しているが、市長選等の影響によりもう少し議論が必要となれば6月議会までの3カ月間、計画期間がずれることも想定しているということをご理解いただきたい。

(会長)

この後の動向を見据えながら、スケジュールについてはその都度委員の皆さんに説明させていただきながら検討を進めていきたい。

(委員)

A Iの導入について、伊賀市においても導入に向け全庁的に検討を行うとあるが、例えばどういった業務に導入しようと考えているのか。

(事務局)

既に試験的に導入している自治体もあるが、伊賀市でも情報関連部署が主になって検討を行っている。今後職員の数が減っていく中で、特定の部署だけでなく全庁的にどういうことができるかを検討していく必要があると考え方針へ入れた。

三重県においても取り組んでいるスマート自治体構想について、伊賀市も今年度から検討を開始した。スマート自治体の中には、行政改革の部分と住民の皆さんの利便性がA Iによってどれだけ上がるのかを検証していく。例えば、窓口サービスにおいては、スマートフォンからの申請を受け付けるなど具体的な検討を行っているので、そういった方針や考え方を次期基本計画へ反映させていきたいと考えている。

(会長)

国の総合戦略にもこのような視点が盛り込まれている。地方版総合戦略においても国の総合戦略の視点に基づき各自治体で戦略を立てることとなっている。国の総合戦略もご覧いただくと良いかと思う。

(委員)

自治基本条例の見直しスケジュールが遅れているが、条例改正のタイミングと計画策定のタイミングとの関係はどうなっているのか。

(事務局)

自治基本条例の見直し検討については、時間が掛かっており今年度中に素案をお示しできればと考えているが、当初の予定から遅れていることは事実である。

ただし、自治基本条例の改正については、令和4年4月1日の施行を目指しており、あと2年以上ある。当初は周知期間を1年間も設ける予定であったので、検討が若干遅れてもスケジュール的には問題はない。

計画と併せて自治基本条例の見直し検討も進めていく予定である。

(委員)

基本計画の中にも自治基本条例のこともある程度入れ込めるということなのか。

(事務局)

改正する部分についてはそうなる。

(副会長)

4ページ目のスケジュールで、私たちが関わる部分はどれか。

(事務局)

左から3列目の「審議会」で、本日の審議会のあと、4月に市から諮問をさせていただき、その後、市と連携を図りながら検討いただき、8月に中間案、1月に最終案の答申をいただく予定としている。

(委員)

今実施しているパブリックコメントは、この策定方針案なのか。

(事務局)

はい。

(委員)

第1次再生計画、第2次再生計画の策定時にも策定方針案のパブリックコメントを実施していたのか。

(事務局)

自治基本条例で総合計画策定に係る手続きが規定されている。

(委員)

丁寧である。

(会長)

当審議会への意見聴取としてはこれで終了させていただくが、引き続きパブリックコメントが行われているので、意見があればそちらで願います。

また、年度初めに市長からの諮問を受けた後は、次期基本計画の中身について皆さんに検討いただくのでよろしく願います。

(2) 伊賀市自治基本条例見直し検討経過について

(会長)

それでは、伊賀市自治基本条例見直し検討経過について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

【資料2 伊賀市自治基本条例見直し検討経過の説明】

- ・平成29年10月26日 諮問
- ・平成30年2月8日 策定方針案の答申
- ・令和元年8月2日 第1回審議会において、専門部会の設置について会長より提案があり承認
- ・その後、庁内協議と連携を図りながら専門部会を3回開催

(会長)

自治基本条例の見直し検討は、総合計画次期基本計画の策定と時期が重複する。また、昨年同様に外部評価にも関わっていただくことになる。このように多面的な役割が当審議会へ期待されている。

自治基本条例の検討について、部会では、私、加納副会長、乾委員、服部委員、学識経験者として皇學館大学の板井先生、アドバイザーとして四日市大学の岩崎学長に加わっていただいている。

本日は、まだ検討中ということで検討の経過について簡単に説明させていただく。

また、加納副会長、乾委員、服部委員においては審議に加わっての感想をいただきたい。

(会長)

条例の新体系のイメージについては、すでに審議会にお示しいただき了解いただいたところである。

これまで専門部会を3回開催し、1回目は「第1章 総則」「第2章 各主体の責務等」、2回目と3回目は「第3章 協働によるまちづくり」の検討を行った。これについては、住民自治協議会の検討を含め、大変重要な章であるので2回に渡り審議を行った。本日は、この審議会終了後第4回の専門部会を開催し、第4章以降や新たな視点について検討する予定である。

本日の専門部会でようやく一通り検討ができることになる。これまではどちらかというと専門部会から市へ意見を出す形で進めてきた。その意見について、市としてどう受け止めていただけるのか。また反映させることができるのか。できるとすればどのような反映の仕方なのか。こうしたことについては、本日の専門部会の後に、市で検討いただき、検討結果を部会へお示しいただくことになる。

審議会の皆さんに検討内容をお示しできるタイミングとしては、市からの方向性が出た頃にご覧いただく方が良く考えているのでご理解いただきたい。

(委員)

条例見直しのポイントを外れないように、常にここへ戻るよう心掛けているが、「分かりやすく、スリム化し、新たな視点を入れる」ということが非常に難しい。私なりに、「市民にとって分かりやすい条例」でないといけないと思うので、議論が盛り上がってきたら、絶えずそこへ引き戻している。私自身も理解を深めながら皆さんに伝達できる役目を果たせたらと思っている。

(委員)

地域福祉の仕事を行っていることから住民自治との関係は非常に強いので、自治基本条例についても重要な問題であるという理解である。自治基本条例は一度見直しが行われて、今回は全地域で住民自治協議会が設立され、これに伴いある程度成熟しているという段階での見直しを考える必要がある。ただし、住民自治協議会が成熟してきたゆえに、住民自治協議会自体の運営が行き詰まっているという状況もあるので、そういった面も踏まえ、成熟した自治を今後どうしていくかを視野に入れ、これから10年先を見越した改正にしていく必要がある。

その中では、支所のあり方や住民自治協議会の連合体のあり方等にも踏み込んでいく必要を感じる。

総合計画の動きと連動していかないといけない。例えば市長が代わったから自治の考え方も変わるようでは困るので、どうなろうが自治の仕組みはこうやって動かしていくんだというようなものにしていかなければならないという立場で意見を言わせていただいている。

(委員)

会長からご指名いただいたときは、地方自治の専門の先生が集まる中で経験のない私が入ることに恐れがあった。

見直しするのは自治基本条例だが、合併後15年経過した中で住民自治協議会が本当に機能しているのか。私はしていないと思う。認識がない等いろんな課題や問題を抱えながらここまで来た。しかし、物事には何でも区切りが必要であるので、今回の自治基本条例の見直しを契機として、住民自治協議会が元気になる方策を練り上げたいという気持ちで検討に入らせていただいている。

例えば、観光地や文化が発展しているところへ視察に行き、その土地が生き生きしているのは何かというと、「しくみ」がしっかりできているからだと思う。まず地元出身のリーダーがいる。当初批判的であってもいつしかそこへボランティアで人が群がる。いろんな年齢層が一つになり、町が良くなり都市が良くなる。最終的にはそれが

ブランド化して観光都市、文化都市となる。これは典型的な理想であって、今回滅多にない自治基本条例の見直しは、住民自治協議会をもう一度原点に戻し、リスタートするチャンスだと捉え、そういうまちづくりができるんだという展望を与えられるような条文にできればと思って入らせていただいている。

今回の改正では、2つの観点から議論している。一つは理念だけの条文にまとめるというものである。条文を整理し重複を無くし、他の条例で規定されているものは、そこへ委任するといった形にすれば条例自体はスリムにできるが、問題なのは現時点で住民自治協議会の受け皿となる条例がないということなので、そこは如何なものかと思う。そういった思いで意見を言わせていただいている。

(会長)

それぞれの立場から審議会を代表して部会へ出席いただくことについて、十分にご理解いただき参画いただいている。

先ほども説明させていただいたが、一通り検討を行い、市の考えが整理された後に審議会へ見直し案をお示しさせていただくが、審議会と部会のキャッチボールの仕方についてご意見ご要望があればお聞かせいただきたい。

(委員)

事務局で中間案としてまとまった状態で審議会へお示しいただくのか。

(事務局)

中間案の前の状態のものとして、専門部会の意見を踏まえ、一通り市の考えをまとめたものをお示しする予定である。

5. その他

(会長)

その他について、今後の会議の進め方等についてもご意見があれば伺いたい。

(委員)

年度末からの審議会の開催日はどうなるのか。

(事務局)

総合計画の策定については、4月に諮問をさせていただく予定なので1回、自治基本条例について、今年度中に見直し案がまとまれば3月に1回開催したい。もし見直し案が4月になれば、総合計画の諮問と同日開催となる。

(委員)

4月以降、次期基本計画の策定に入ると、条例の検討に加え外部評価となると毎月開催となるのか。

(事務局)

次期基本計画の検討方法については岩崎会長と調整させていただくが、夏頃までは外部評価の実施を考えると毎月開催になると思われる。

(会長)

その際、計画と条例の検討を分けて行うのか、1回の審議会で2つの検討を行うか。

これまではだいたい1回1時間から2時間程で終了していたが、2つの検討となると4時間ぐらいになると思うがどうか。

(委員)

できれば1日で2つの検討を行う方向でお願いしたい。

それと合わせ、できる限り議論の短縮に繋がるよう会議資料については事前配付をお願いしたい。

(会長)

重要なお指摘である。

(会長)

他に意見がなければ、進行を事務局へお返しする。

閉 会

(事務局)

それでは、本日の会議を終了させていただく。